

取扱注意

介護認定審査会資料【事例3】

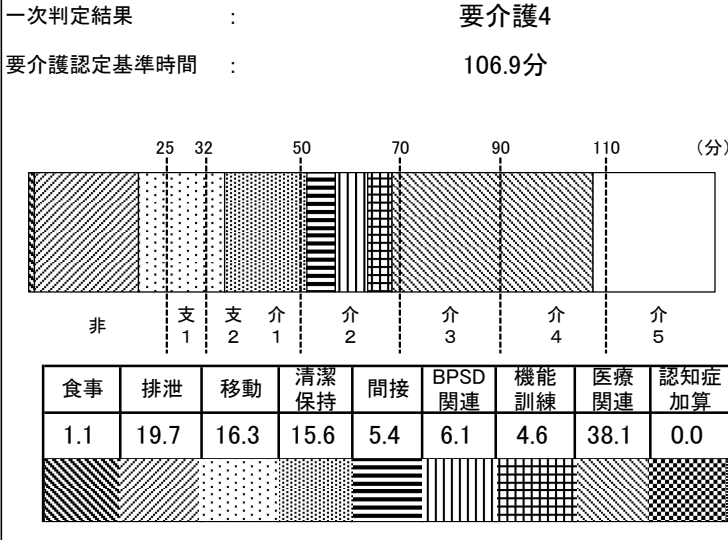
令和〇年〇月〇日 作成
令和〇年〇月〇日 申請
令和〇年〇月〇日 調査
令和〇年〇月〇日 審査

合議体番号: 000001

被保険者区分: 第1号被保険者
申請区分: 更新申請
家族状況: 同居(夫婦のみ)年齢: 83歳 性別: 女
前回要介護度: 要介護5現在の状況: 医療機関(療養病床以外)
前回認定有効期間: 12 月間

1 一次判定等

(この分数は、実際のケア時間を示すものではない)



警告コード: 41、42

3 中間評価項目得点

第1群	第2群	第3群	第4群	第5群
27.4	9.8	59.5	100.0	35.2

4 日常生活自立度

障害高齢者自立度	B2
認知症高齢者自立度	Ⅲa

5 認知機能・状態の安定性の評価結果

認知症高齢者の日常生活自立度	
認定調査結果	Ⅲa
主治医意見書	Ⅲa
認知症自立度Ⅱ以上の蓋然性	
状態の安定性	不安定
給付区分	介護給付

6 現在のサービス利用状況(介護給付)

訪問介護(ホームヘルプ)・訪問型サービス	0 回/月	福祉用具貸与	0 品目
訪問入浴介護	0 回/月	特定福祉用具販売	0 品目
訪問看護	0 回/月	住宅改修	なし
訪問リハビリテーション	0 回/月	夜間対応型訪問介護	0 日/月
居宅療養管理指導	0 回/月	認知症対応型通所介護	0 日/月
通所介護(デイサービス)・通所型サービス	0 回/月	小規模多機能型居宅介護	0 日/月
通所リハビリテーション	0 回/月	認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	0 日/月
短期入所生活介護(ショートステイ)	0 日/月	地域密着型特定施設入居者生活介護	0 日/月
短期入所療養介護	0 日/月	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	0 日/月
特定施設入居者生活介護	0 日/月	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	0 回/月
看護小規模多機能型居宅介護	0 日/月		

2 認定調査項目

	調査結果	前回結果
第1群 身体機能・起居動作		
1. 麻痺(左上肢)	ある	←
麻痺(右上肢)		
麻痺(左下肢)	ある	←
麻痺(右下肢)		
麻痺(その他)	ある	←
2. 拘縮(肩関節)		
拘縮(股関節)		
拘縮(膝関節)		
拘縮(その他)		
3. 寝返り	できない	つかまれば可
4. 起き上がり	できない	←
5. 座位保持	支えが必要	←
6. 両足での立位	できない	←
7. 歩行	できない	←
8. 立ち上がり	できない	←
9. 片足での立位	できない	←
10. 洗身	全介助	←
11. つめ切り	全介助	←
12. 視力		←
13. 聴力		←
第2群 生活機能		
1. 移乗	全介助	←
2. 移動	全介助	←
3. えん下	できない	見守り等
4. 食事摂取	全介助	一部介助
5. 排尿	全介助	一部介助
6. 排便	全介助	←
7. 口腔清潔	全介助	一部介助
8. 洗顔	全介助	←
9. 整髪	全介助	一部介助
10. 上衣の着脱	一部介助	←
11. スボン等の着脱	全介助	←
12. 外出頻度	月1回未満	週1回以上
第3群 認知機能		
1. 意思の伝達	ときどきできる	できる
2. 毎日の日課を理解	できない	できる
3. 生年月日をいう		←
4. 短期記憶	できない	できる
5. 自分の名前をいう		←
6. 今の季節を理解	できない	できる
7. 場所の理解	できない	できる
8. 徘徊		←
9. 外出して戻れない		←
第4群 精神・行動障害		
1. 被害的		ときどきある
2. 作話		←
3. 感情が不安定		←
4. 昼夜逆転		←
5. 同じ話をする		←
6. 大声を出す		←
7. 介護に抵抗		←
8. 落ち着きな		←
9. 一人で出たがる		←
10. 収集癖		←
11. 物や衣類を壊す		←
12. ひどい物忘れ		←
13. 独り言・独り笑い		ときどきある
14. 自分勝手に行動する		ときどきある
15. 話がまとまらない		←
第5群 社会生活への適応		
1. 薬の内服	全介助	←
2. 金銭の管理	全介助	一部介助
3. 日常の意思決定	日常的に困難	←
4. 集団への不適応		←
5. 買い物	全介助	←
6. 簡単な調理		全介助

特別な医療

医療行為	調査	医療行為	調査
点滴の管理		気管切開の処置	
中心静脈栄養		疼痛の看護	
透析		経管栄養	ある
ストーマの処置		モニター測定	
酸素療法		じよくそうの処置	
レスピレーター		カテーテル	

概況

夫と2人暮らしだった。家事全般を担い、自立した生活を送っていた。1年前に脳梗塞、脳血管性認知症を発症し、左半身麻痺となり入院。1か月後にリハビリ専門病院に転院し、座位保持・立位等のADL、嚥下機能が改善。5か月後に退院となる。デイケア、訪問看護、訪問介護を利用し、リハビリも継続していたが、2か月前に誤嚥性肺炎を発症し、急性期病院に入院。嚥下困難で経管栄養となる。認知機能の低下と意思疎通が難しい場面もある。左半身麻痺、両肩痛、右膝痛、腰痛もあり、日常生活全般に介助が必要である。ご夫婦ともに自宅での生活を希望されている。【夫・看護師の立ち合いで調査を行う】

1 身体機能・起居動作に関連する項目についての特記事項

1-1 麻痺等の有無 1-2 拘縮の有無 1-3 寝返り 1-4 起き上がり 1-5 座位保持 1-6 両足での立位 1-7 歩行 1-8 立ち上がり、
1-9 片足での立位 1-10 洗身 1-11 つめ切り 1-12 視力 1-13 聴力

(1-1～1-9) 車いすで確認動作を行う。全て日頃も同様(看護師より)。

(1-1) 右上下肢は前方・横ともに肩の高さまでゆっくり挙上保持できる。左上下肢は麻痺があり、前方・横ともに全く自分で動かせず、左手・手指、左足・足趾も麻痺があり、自分で動かすことができない。

「左上肢」「左下肢」「その他」を選択。

(1-2) 右肩・右膝の痛みはあるが、可動域制限はない。左肩の痛みはあるが、他動で肩の高さまで挙上できる。左膝も他動で伸展できる。両股関節は他動で90度まで屈曲できる。左股関節は他動で10cmの外転だが、右股関節は他動で25cm外転できる。左肘、左手指は他動で動き、他の関節も可動域制限はない。

(1-3) 自分で寝返りできない。「3.できない」を選択。

(1-4) 自分で起き上がれない。「3.できない」を選択。

(1-5) 常時、背もたれ・ひじ掛けが必要。「3.支えが必要」を選択。

(1-6) 職員が支えても5秒しか立位保持できない。「3.できない」を選択。

(1-7) 歩行できない。「3.できない」

(1-8) 自分で立ち上がれない。「3.できない」

(1-9) できない。「3.できない」

(1-10) 職員が洗う。「3.全介助」

(1-11) つめ切りは職員が行う。「3.全介助」

(1-12・13) 字は見える。「1.普通」 日頃から普通の声の大きさに聞こえる。「1.普通」

2 生活機能に関連する項目についての特記事項

2-1 移乗 2-2 移動 2-3 えん下 2-4 食事摂取 2-5 排尿 2-6 排便 2-7 口腔清潔 2-8 洗顔 2-9 整髪 2-10 上衣の着脱
2-11 ズボン等の着脱 2-12 外出頻度

(2-1) 職員が抱えて移乗する。「4.全介助」を選択。

(2-2) 職員が車いすを押す。「4.全介助」。

(2-3) 経口摂取できない。「3.できない」。

(2-4) 経管栄養を職員が注入。「4.全介助」。

(2-5・6) ベッド上で職員がおむつ交換する。「4.全介助」。

(2-7) 職員が義歯の出し入れ、洗浄を行う。「3.全介助」

(2-8) 温タオルで職員が拭く。「3.全介助」 (2-9) ブラシで職員が整髪する。「3.全介助」

(2-10) 右上肢のみゆっくり腕を通す。他は職員が介助。「3.一部介助」

(2-11) 職員がズボンの着脱を行う。「4.全介助」。

(2-12) 病院に入院後、一度も外出していない。「3.月1回未満」。

3 認知機能に関連する項目についての特記事項

3-1 意思の伝達 3-2 毎日の日課を理解 3-3 生年月日を言う 3-4 短期記憶 3-5 自分の名前を言う 3-6 今の季節を理解 3-7 場所の理解
3-8 徘徊 3-9 外出して戻れない

(3-1～7) 本人に質問できる。全て日頃も同様（看護師・夫より）

(3-1) リハビリ、入浴、上着の着脱等の意向を職員が聞くと、「はい」と答える。「家に帰りたい」「お父さんに会いたい」なども伝えることができるが、それ以外は単語を思い出せずに伝達できない。「2. ときどきできる」

(3-2) 日課は答えられない。時間や曜日もわからない。「2. できない」

(3-3) 生年月日は答えられる。年齢は答えられない。「1. できる」

(3-4) 調査時、訪問前にしていたことは回答がなかった。日頃から短期記憶はできない。「2. できない」

(3-5) 姓・名をゆっくり答え、正答する。「1. できる」

(3-6) 季節の質問には回答がなかった。「2. できない」

(3-7) 調査時は戸惑う表情をされ、回答はなかった。自宅でないことは理解しているが、今の場所の理解はできない。「2. できない」

(3-8・9) 「ない」。夫・看護師より。

4 精神・行動障害に関連する項目についての特記事項

4-1 被害的 4-2 作話 4-3 感情が不安定 4-4 昼夜逆転 4-5 同じ話をする 4-6 大声を出す 4-7 介護に抵抗 4-8 落ち着きなし 4-9 一人で出たがる 4-10 収集癖 4-11 物や衣類を壊す 4-12 ひどい物忘れ 4-13 独り言・独り笑い 4-14 自分勝手に行動する 4-15 話がまとまらない

※ 該当する項目はない。（夫・看護師より）

(4-8) 「家に帰りたい」と言われるが、落ち着きのない状況まではない。夫の面会を喜ばれている。

(4-12) 短期記憶障害はあるが、ひどい物忘れ行動は生じていない。

5 社会生活への適応に関連する項目についての特記事項

5-1 薬の内服 5-2 金銭の管理 5-3 日常の意思決定 5-4 集団への不適応 5-5 買い物 5-6 簡単な調理

(5-1) 経管栄養から職員が薬を注入する。「3. 全介助」。

(5-2) 夫が全て管理する。「3. 全介助」。

(5-3) 日課の理解はできないが、上着の着脱やリハビリを行うことは理解でき、意思決定できている。「3. 日常的に困難」を選択。

(5-4) 集団不適応はない。「1. ない」

(5-5) 家族と施設が全て購入。「4. 全介助」。

(5-6) 医師の指示で、経管栄養は常温で注入する。「1. 介助されていない」を選択。

6 特別な医療についての特記事項

6 特別な医療

(6-9) 医師の指示で看護師が経管栄養の注入を行う。

7 日常生活自立度に関連する項目についての特記事項

7-1 障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度) 7-2 認知症高齢者の日常生活自立度

(7-1) 「B2」移乗、移動は全介助。車いすでの座位保持ができる。

(7-2) 「Ⅲa」夫のことは覚えているが、短期記憶障害があり、場所の理解、日課の理解、意思決定も困難である。排泄、入浴、着脱等、介助が必要。

【事例 3】

主治医意見書

記入日 令和 ○ 年 ○ 月 ○ 日

申請者	(ふりがな)	男・女	〒	—
	明・大・昭 年 月 日生(歳)		連絡先	()
上記の申請者に関する意見は以下の通りです。 主治医として、本意見書が介護サービス計画作成等に利用されることに ☐ 同意する。 ☐ 同意しない。				
医師氏名		電話 ()		
医療機関名		FAX ()		
医療機関所在地				
(1) 最終診察日	令和 ○ 年 ○ 月 ○ 日			
(2) 意見書作成回数	☐ 初回 ☒ 2回目以上			
(3) 他科受診の有無	☒ 有 ☐ 無 (有の場合) → ☐ 内科 ☐ 精神科 ☐ 外科 ☒ 整形外科 ☒ 脳神経外科 ☐ 皮膚科 ☐ 泌尿器科 ☐ 婦人科 ☐ 眼科 ☐ 耳鼻咽喉科 ☐ リハビリテーション科 ☐ 歯科 ☐ その他()			

1. 傷病に関する意見

(1) 診断名 (特定疾病または生活機能低下の直接の原因となっている傷病名については1.に記入) 及び発症年月日

1. 脳梗塞	発症年月日 (昭和・平成・令和) ○年 ○月 ○日頃)
2. 脳血管性認知症	発症年月日 (昭和・平成・令和) ○年 ○月 ○日頃)
3. 誤嚥性肺炎	発症年月日 (昭和・平成・令和) ○年 ○月 ○日頃)

(2) 症状としての安定性 ☒ 安定 ☐ 不安定 ☐ 不明

(「不安定」とした場合、具体的な状況を記入)

(3) 生活機能低下の直接の原因となっている傷病または特定疾病の経過及び投薬内容を含む治療内容
(最近(概ね6ヶ月以内)介護に影響のあったもの) 及び 特定疾病についてはその診断の根拠等について記入)

1年前に左片麻痺が出現し、MRIにて脳梗塞と診断。脳血管性認知症も発症し、治療を行う。
1か月後にリハビリ病院に転院し、リハビリを行い、5か月後に退院する。
退院3か月後に誤嚥性肺炎を発症して入院、経管栄養となる。
現在、在宅復帰を目的に、治療・リハビリを継続している。投薬は経鼻から行う。

○○○錠 10mg 2錠 朝食後 ○○○○錠 20mg 1錠 朝食後
○○○○錠 15mg 1錠 朝食後 ○○○○○錠 0.5mg 朝昼夕3回(食後)

2. 特別な医療（過去14日間以内に受けた医療のすべてにチェック）

処置内容	☐ 点滴の管理	☐ 中心静脈栄養	☐ 透析	☐ ストーマの処置	☐ 酸素療法
	☐ レスピレーター	☐ 気管切開の処置	☐ 疼痛の看護	☒ 経管栄養	
特別な対応	☐ モニター測定（血圧、心拍、酸素飽和度等）				
失禁への対応	☐ カテーテル（コンドームカテーテル、留置カテーテル 等）				

3. 心身の状態に関する意見

(1) 日常生活の自立度等について

・障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度) ☐ 自立 ☐ J1 ☐ J2 ☐ A1 ☐ A2 ☐ B1 ☒ B2 ☐ C1 ☐ C2

・認知症高齢者の日常生活自立度 ☐ 自立 ☐ I ☐ II a ☐ II b ☒ III a ☐ III b ☐ IV ☐ M

(2) 認知症の中核症状 (認知症以外の疾患で同様の症状を認める場合を含む)

・短期記憶 ☐ 問題なし ☒ 問題あり

・日常の意思決定を行うための認知能力 ☐ 自立 ☐ いくらか困難 ☐ 見守りが必要 ☒ 判断できない

・自分の意思の伝達能力 ☐ 伝えられる ☐ いくらか困難 ☒ 具体的要求に限られる ☐ 伝えられない

(3) 認知症の行動・心理症状 (BPSD) (該当する項目全てチェック：認知症以外の疾患で同様の症状を認める場合を含む)

☒ 無 ☐ 有 { ☐ 幻視・幻聴 ☐ 妄想 ☐ 昼夜逆転 ☐ 暴言 ☐ 暴行 ☐ 介護への抵抗 ☐ 徘徊

☐ 火の不始末 ☐ 不潔行為 ☐ 異食行動 ☐ 性的問題行動 ☐ その他 ()

(4) その他の精神・神経症状

☒ 無 ☐ 有 → 症状名： _____

[専門医受診の有無 ☐ 有 () 科) ☒ 無]

(5) 身体の状態

利き腕 (☒右 ☐左) 身長＝ **154cm** 体重＝ **48kg** (過去 6 ヶ月の体重の変化 ☐ 増加 ☐ 維持 ☒ 減少)
☐ 四肢欠損 (部位: _____)
☒ 麻痺 ☐ 右上肢 (程度: ☐ 軽 ☐ 中 ☐ 重) ☒ 左上肢 (程度: ☐ 軽 ☐ 中 ☒ 重)
☐ 右下肢 (程度: ☐ 軽 ☐ 中 ☐ 重) ☒ 左下肢 (程度: ☐ 軽 ☐ 中 ☒ 重)
☒ その他 (部位: 左手、左足 程度: ☐ 軽 ☐ 中 ☒ 重)
☒ 筋力の低下 (部位: 右上下肢 程度: ☐ 軽 ☒ 中 ☐ 重)
☐ 関節の拘縮 (部位: _____ 程度: ☐ 軽 ☐ 中 ☐ 重)
☒ 関節の痛み (部位: 両肩、右膝、腰部 程度: ☐ 軽 ☒ 中 ☐ 重)
☐ 失調・不随意運動 ・上肢 ☐ 右 ☐ 左 ・下肢 ☐ 右 ☐ 左 ・体幹 ☐ 右 ☐ 左
☐ 褥瘡 (部位: _____ 程度: ☐ 軽 ☐ 中 ☐ 重)
☐ その他の皮膚疾患 (部位: _____ 程度: ☐ 軽 ☐ 中 ☐ 重)

4. 生活機能とサービスに関する意見

(1) 移動

屋外歩行 ☐ 自立 ☐ 介助があればしている ☒ していない
 車いすの使用 ☐ 用いていない ☐ 主に自分で操作している ☒ 主に他人が操作している
 歩行補助具・装具の使用(複数選択可) ☒ 用いていない ☐ 屋外で使用 ☐ 屋内で使用

(2) 栄養・食生活

食事行為 ☐ 自立ないし何とか自分で食べられる ☒ 全面介助
 現在の栄養状態 ☐ 良好 ☒ 不良
 → 栄養・食生活上の留意点 (摂食嚥下訓練を始めており、誤嚥に留意しながら食べる機能を向上させていく)

(3) 現在あるかまたは今後発生の可能性の高い状態とその対処方針

☒ 尿失禁 ☒ 転倒・骨折 ☒ 移動能力の低下 ☒ 褥瘡 ☒ 心肺機能の低下 ☐ 閉じこもり ☒ 意欲低下 ☐ 徘徊
☐ 低栄養 ☒ 摂食・嚥下機能低下 ☐ 脱水 ☐ 易感染性 ☐ がん等による疼痛 ☐ その他 ()
 → 対処方針 ()

(4) サービス利用による生活機能の維持・改善の見通し

☒ 期待できる ☐ 期待できない ☐ 不明

(5) 医学的管理の必要性 (特に必要性の高いものには下線を引いて下さい。予防給付により提供されるサービスを含みます。)

☒ 訪問診療 ☒ 訪問看護 ☒ 訪問歯科診療 ☐ 訪問薬剤管理指導
☒ 訪問リハビリテーション ☒ 短期入所療養介護 ☐ 訪問歯科衛生指導 ☐ 訪問栄養食事指導
☒ 通所リハビリテーション ☐ 老人保健施設 ☐ 介護医療院 ☐ その他の医療系サービス()
☐ 特記すべき項目なし

(6) サービス提供時における医学的観点からの留意事項 (該当するものを選択するとともに、具体的に記載)

☒ 血圧 (血圧上昇時・低下時は入浴を控える) ☒ 摂食 (咀嚼をしっかりと行い、誤嚥予防。口腔ケアも継続)
☒ 嚥下 (在宅に向けて、歯科医師・言語聴覚士等と連携し、食べられるものを検討していく必要がある)
☒ 移動 (転倒・転落に気をつける) ☒ 運動 (拘縮予防) ☐ その他 ()
☐ 特記すべき項目 (なし)

(7) 感染症の有無 (有の場合は具体的に記入して下さい)

☒ 無 ☐ 有 () ☐ 不明

5. 特記すべき事項

要介護認定及び介護サービス計画作成時に必要な医学的なご意見等を見守りに影響を及ぼす疾病の状況等の留意点を含め記載して下さい。特に、介護に要する手間に影響を及ぼす事項について記載して下さい。
 なお、専門医等に別途意見を求めた場合はその内容、結果も記載して下さい。(情報提供書や障害者手帳の申請に用いる診断書等の写しを添付して頂いても結構です。)

脳梗塞発症後、ADL・IADL などの介助が必要な状態です。
 誤嚥性肺炎発症後から経鼻経管栄養となり、現在リハビリを継続しています。
 誤嚥性肺炎による状態悪化や転倒・転落による骨折受傷等のリスクは高いですが、
 ご夫婦ともに自宅での生活を希望されており、今後も治療とともに、ADL、摂食・嚥下、意思疎通などの機能改善に向けたリハビリなどを続けていきます。